

静

岡

伊豆岳南

2013年(平成25年)9月1日 日曜日

月 日 新 聞

登って実地で環境学習

沼津・桐陽高生60人、ゴミ集めも

沼津市の私立桐陽高校の生徒ら約60人が、富士山に登って実地で環境について学び、自然保護のために清掃活動をした。富士宮登山口の水ヶ塚駐車場の清掃では、七つの大型ゴミ袋がいっぱいになるほどのゴミが集まった。実施したのは29日。貸し切りバスなどの費用は、生徒がこれまでに集めた約14万個の空き缶の売却代金を充てるなど、自分たちで工面した。

生徒らは、環境NPOの案内で、富士宮登山口五合目から宝永火口まで歩き、富士山の成り立ちや、樹木や野草などについて説明を受けた。その後、水ヶ塚駐車場まで下り、その周辺でゴミ拾い。約1時間の活動で、空き缶やたばこの吸い殻のほか、一斗缶や車のバンパーなどといった大型のゴミも見つけ出した。

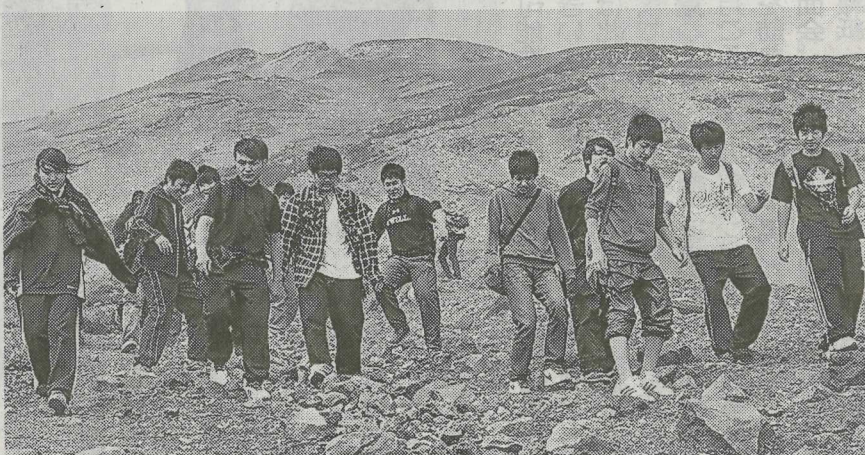
前日は、富士山学で知られる都留文科大教授の渡辺豊博さんから、富士山の文化的価値や環境問題について学び、この日に備えた。

活動資金となった空き缶集めは、4年前から同高で始まった。生徒らは、自宅から持って来たり、近くのスーパーや事業所を回ったりして、約2カ月かけて空き缶を収集。6月にあった文化祭では、その空き缶で縦18層、横10層の巨大な「赤富士」を完成させ、披露した。

文化祭後、この空き缶はリサイクルに回され、その収益が生徒会に入ってくる。これまでは被災地への寄付やボランティア活動の資金として使われてきたが、今年は、「世界遺

産に登録された富士山のために活用しよう」という話が出て、富士山でのボランティア活動が決まった。

生徒会長の黒沢尚貴君(2年)は、「富士山は世界遺産に登録された誇らしい山だけど、ゴミやし尿など環境の問題も大きい。いつまでもきれいな富士山であり続けられるよう、自分たちも協力していきたい」と話した。



富士山の宝永火口付近の急坂を下りる桐陽高の生徒たち—富士宮口登山道

世界の富士山

秋も美しく